

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 地 図

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	東書	<新編 新しい地図帳> 地図303
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の知的好奇心や想像力に働きかけ、児童が開きたくなる、様々な場面で活動できる、全ての児童が使いやすいよう配慮された編集内容となっている。 ○ 地図帳の使い方において、方位磁針を用いて身の回りの方位を図る、地図のきまりを使った身近な地図づくりに取り組むなどの具体的な活動を通して、スモールステップで地図を学ぶことができるなどの特色がある。 ○ 日本の全図において、日本の東西南北端を調べる活動や交通網に着目した都市間の距離を測る活動等を通して、地域や我が国の国土の地理的環境について理解することができるような工夫がなされている。 ○ 日本の地方図において、北陸地方の伝統工芸品を読み取る活動や本州から九州へ渡る交通路を調べる活動等を通して、地域や我が国の歴史や伝統と文化について理解するとともに、情報を適切に調べる技能を身に付けるような工夫がなされている。 ○ 世界の地図において、世界で一番高いところと深いところを探す活動や北極海を囲む国を調べる活動等を取り入れたり、各地域の特徴的な動物や料理を写真で示したりするなど、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解することができるような工夫がなされている。 ○ 資料・統計において、多様な主題図を掲載し、交通路の分布と産業の様子を比較・検討したり、日本の最大貿易国や輸出状況を読み取ったりするなど、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることができるなどの特色がある。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、日本と世界の歴史地図や自然災害地図、ハザードマップ等を掲載するなど、世界との比較から学びを深めたり、よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度を養ったりすることができるなどの特色がある。 	
内容の構成・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、巻頭の「地図のぼうけんに出発」「日本の47都道府県」により興味・関心を高め、「地図学習」において第3学年から段階的に地域の地図作りに取り組めるよう構成、「日本の地図」「世界の地図」、世界の歴史との関連等も含めた「資料地図・統計」を排列し、系統的・発展的に第6学年まで学習できるような工夫がなされている。 ○ 「地図帳の使い方」が8ページ、「日本の全図」が7ページ、「日本の地方図」が34ページ、「世界の地図」が20ページ、「資料・統計」が33ページ、総ページ数は前回同様の102ページとなっている。 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の世界地図では世界の挨拶や民族衣装、日本地図には特産物等をイラストで紹介するなど、児童の学習意欲を高めるような工夫がなされている。 ○ キャラクターが地図の基本を解説したり、地図活用の視点を紹介したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「ポップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」が設けられ、児童自らが活動を通して、地図の基本や社会的事象について考えることができるような工夫がなされている。 ○ 全ての児童にとって読みやすいフォントを使用したり、地図において必要な情報が見やすくなるよう配色したりするなど、使用上の便宜が図られている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、白地図やドローン動画、クイズなどの多様なQRコンテンツが利用できる。 ○ 北方領土(13箇所)、アイヌ語地名などアイヌの人たち(6箇所)について取り上げられているとともに、資料「日本の各地の気温と降水量」に帯広のグラフが掲載されている。 ○ SDGsについては、QRコンテンツから外部サイト「わたしたちがつくる未来」への接続が可能となっている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 地 図

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	帝国	<楽しく学ぶ 小学生の地図帳 3・4・5・6年> 地図304
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国土を知り、未来を切り拓くための学びを育み、主体的な学びの力を伸ばし、親しみながら地図活用の基礎・基本が身に付けられるよう配慮された編修内容となっている。 ○ 地図帳の使い方において、方位や地図記号、土地利用等を用いて宝探しに取り組んだり、都市間の縮尺を用いて実際の距離を調べたりするなどの具体的な活動を通して、地図に親しみながら学ぶことができるなどの特色がある。 ○ 日本の全図において、第3学年や第4学年でも読み取りやすい要素を精選した地方図の活用や北方領土の島の名前を調べる活動や富士山がある県を調べる活動などを通して、地域や我が国の国土の地理的環境について理解することができるような工夫がなされている。 ○ 日本の地方図において、北海道の農産物を調べる活動や各地域の特産物や自然条件を読み取る活動、「江戸」等の歴史地図を掲載するなど、地域や我が国の地理的環境の特色や産業の現状、歴史や文化について理解するとともに、情報を適切に調べる技能を身に付けることができるような工夫がなされている。 ○ 世界の地図において、ヨーロッパから日本へ伝わった言葉を探す活動、パナマ運河がつけられた理由を説明する活動やメジャーリーグの野球チームについて資料を掲載するなど、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について、興味や関心をもち、取り組める内容が取り入れられているなどの特色がある。 ○ 資料・統計において、多様な主題図を掲載し、比較、関連させて考察したり、地形を別の地図と関連させて読み取ったりするなど、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、適切に表現することができるような工夫がなされている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、自然災害地図の掲載、防災マップづくりをする活動等を通して、身の守り方を考えたり、「江戸時代」や「日本の歴史」等の資料地図を活用し、歴史事象等を地理的な空間の広がり結び付けたりすることで深い学びを実現できるなどの特色がある。
内容の構成・ 分量等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「地図で世界発見!」「地図で日本発見!」により興味・関心を高め、「地図学習」において第3学年の学びとして、地図の基本、約束を掲載、「広く見わたす地図」「日本の地図」「世界の地図」と活用度の高い使用学年に配慮、防災マップづくり等も含めた「資料地図・統計」を排列し、系統的・発展的に第6学年まで学習できるような工夫がなされている。 ○ 「地図帳の使い方」が14ページ、「日本の全図」が15ページ、「日本の地方図」が46ページ、「世界の地図」が20ページ、「資料・統計」が37ページ、総ページ数は前回より10%増の132ページとなっている。
使用上の 配慮等		<ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターが地図の基本や見方を解説、示唆したり、活用を促したりするなど、児童の主体的な学びに適している。 ○ 「トライ!」「地図マスターへの道」、巻末に「地図マスターへの道にちょうせんしよう」(まとめ)が設けられ、児童自らが活動を通して、地図の基本や社会的事象について考えることができるような工夫がなされており、大変よくできている。 ○ 全ての児童にとって読みやすいフォントを使用したり、土地の様子を鮮やかに表現できるよう配色したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、アニメーションによる解説やクイズ、動画、音声コンテンツ等の多様なコンテンツが利用できる。 ○ 北方領土(16箇所)、アイヌ語地名等、アイヌの人たち(9箇所)について取り上げられるとともに、北海道南部の詳細な地図も掲載されている。 ○ SDGsについては、特設ページを設けたり、コラム「世界のSDGs」を配置したりするなど題材として活用できるようになっている。